



重点目標	評価項目	取組(P)	自己評価(A)		学校関係者評価	
			方策・手立て(D)、結果の考察・分析及び改善策等(C)		具体的意見	
2 生徒支援の充実	① 高校生としての基本的な生活習慣の確立、豊かな人間性と規範意識の醸成	<p>(1) 生徒相互のあいさつの活発化と日常化を図るために、生徒会や部活動生を中心に朝のあいさつ運動に取り組む。</p> <p>(2) 身だしなみの意識改善を図るために、授業等での常時指導を全職員で徹底するとともに、定期的な服装容儀指導を実施する。</p> <p>(3) 社会のルールとマナーを守り、分別のある行動ができ、他人への配慮を忘れず、人間性・協調性に富んだ生徒を育成すると同時に、教員自身が率先垂範に努める。</p> <p>(4) 生徒の個性を尊重し、人命尊重の精神を育成し、いじめのない環境を醸成するために、生徒一人ひとりに目を配り、居場所作りを努める。</p> <p>(5) 規範意識の高揚を図るために、時間厳守、礼儀作法など、社会の常識や秩序を正しく理解させ、高校生として取るべき行動とは何かを考えさせる。</p>	<p>○年間を通して、生徒(部活動生及び生徒会等)、職員が一体となって正門でのあいさつ運動を実施した。この運動は、あいさつや風紀指導のみならず、生徒の表情観察や登校状況を把握できる絶好の機会と捉えており、生徒理解のための重要な活動の機会と考えている。</p> <p>○本年度の容儀指導は、常時指導の徹底を図りながら、各学期の始業日(計3回)にあわせ実施した。服装の乱れはないが、頭髪で再指導を受ける生徒がみられる。今後も風紀交通委員を中心に全職員で平常の常時指導の徹底を継続的に図っていききたい。</p> <p>○LGBTQに配慮した取り組みとして、女子のスラックスを導入している。生徒の多様性に応じて、スカート、スラックス両方購入し、使い分けをしている生徒が増加している傾向にある。また、制服(スラックス)だけではなく、体育シャツの長袖を導入し、肌を露出たくない生徒への対応を図っている。</p> <p>○規範意識の高揚を図るための取り組みとして、「時間厳守」を徹底している。遅刻する生徒は極少数であり、授業も落ち着いて開始できており、職員自身が率先垂範に努めている。</p>	3.0	<p>・生徒たちがのびのびと活動できていると感じている。ルールで規制することと同時に主体性を育むやり方を取り入れても良いと思う。</p> <p>・生徒会役員をはじめ、生徒が積極的に学校行事や諸々の活動に取り組んでいて、素晴らしいと思う。</p> <p>・教育相談についても日南高校の取組はきめ細やかで頭が下がる。不登校や転学する生徒も減っていると聞いて、素晴らしいと思う。</p> <p>・あいさつ運動、容儀指導、ボランティア活動、教育相談など、生徒の規範意識とメンタルケアの両面からアプローチして、良いと思う。</p> <p>・ヘルメット着用の取組は高く評価したい。ヘルメット着用の推進校になってもらいたい。命を守る取組は生徒や保護者に安心感をもたせ、信頼される学校づくりになる。ぜひ前面に出して、特色ある教育活動にしてほしい。安心安全の学校づくりを大切にしてほしい。</p>	
	② 部活動の充実強化、学校行事やボランティア等への自主的で積極的な参加の促進	<p>(1) 帰属意識を高めるとともに、生徒の自主性を育成するために、生徒主体の運営を促し、生徒会活動や各種委員会活動、部活動や学校行事等の活性化を図る。</p> <p>(2) 勤労の尊さや相手の立場に立って考えることの大切さを理解できる生徒、シティブライドを持った生徒を育成するために、ボランティア活動や地域行事への積極的な参加を促す。</p> <p>(3) 部活動の意義を理解し、部活動で学んだことが日常生活や学校生活で生かせる生徒を育成するために、1年生への部活動加入を推奨し、文武両道を目指すとともに、奨励部を中核として部活動の活性化を図る。</p> <p>(4) 情報端末(携帯電話など)の適切な使用について考えさせ、メールやSNSによる誹謗・中傷をはじめとする様々なトラブルを防ぐために、「日南高校 携帯電話利用五箇条」に基づいた指導を徹底する。</p>	<p>○生徒会執行部を中心に各種委員会と連携し、生徒総会やエクセルシア祭、クラスマッチや無限会等の行事を開催することができた。生徒が主体的に意見やアイデアを出し、例年以上に完成度の高い学校行事であった。</p> <p>○交通安全の取り組みとして、自転車の「交通違反における厳罰化」に伴う対策として、生徒会より啓発運動(Q&amp;A)を実施した。また「ヘルメット着用推進活動」の取り組みとし、2月2日、5日の2日間を梅田学園、ヴィアマテラス宮崎、日南市役所、日南警察署、宮崎日日新聞等と連携し、朝の交通指導と並行し、着用推進キャンペーンを活動を実施する予定である。</p> <p>○部活動については、放送部が全国大会、奨励部である陸上競技部が南九州大会へそれぞれ出場を果たした。その他、運動部・文化部ともに学業と部活動の両立を図りながら、各生徒が日々取り組んでいる。近年の生徒数の減少に伴う部員不足が課題となっている。</p> <p>○ボランティア活動については、日南市や各種団体と連携した活動を実施することができた。鉄肥駅清掃、読み聞かせ、子ども食堂等、多くの生徒が積極的に参加し、豊かな人間性の育成を図ることができた。</p> <p>○年度当初には、日南警察署と連携し、全校生徒を対象とした情報モラル教室を実施していたが、継続的に指導する重要性を感じている。今後も引き続き、指導徹底を図っていききたい。</p>	3.0	<p>・今後の生徒減少を見据えた部活動の在り方の検討が必要と考える。</p> <p>・制服について親としては学ランが学生らしいと思うが、LGBTQに配慮するのであれば、変えることも必要だと思う。議論を活発にしてほしい。</p> <p>・LGBYQへの偏見に対する正しい知識を今後も色々な形で伝え、相談しやすい環境をつくってほしい。</p> <p>・電子メディアは依存性があり、ある程度利用を制限しないと指導は難しいのではないかと。正しいスマホの使い方を教育に入れてほしい。</p>	
	③ 生徒の心身の健康への意識向上及び教育相談活動の充実	<p>(1) 定期健康診断等の結果をもとに生徒の健康状況を把握し、家庭との連携を図り、生涯を通しての健康づくりに取り組む。</p> <p>(2) 健康観察・保健室での様子、教育相談室での相談、教育相談アンケート、職員からの情報などから生徒の心身の変調を早期に把握し、職員とのチームワークで生徒一人ひとりにきめ細やかなサポートができる体制づくりに取り組む。また、生徒の心の問題については教育相談室を中心としながら、状況に応じて外部関係機関と連携し、迅速な対応を行う。</p> <p>(3) 教育相談・特別支援に関する職員研修・講演会の実施や関係する保護者・職員・外部機関との連携を通して、支援が必要な生徒が学習しやすい環境を整える。</p>	<p>○今年度も定期健康診断も滞りなく実施することができ、家庭と連携しながら、生徒の健康状況の把握に努めた。また、保健室から発行する「ほけんだより」にて生徒の心身の健康についての知識や意識の向上に努めた。</p> <p>○年3回教育相談アンケートを実施し、生徒の不安や悩みの解消に努めた。不登校傾向にある生徒についてはケース会議を開き、生徒状況について職員間で共通理解を図り、生徒にとってよりよい方向に向かうよう今後の対応等について協議した。生徒の状況によっては、SSWやSCと連携し、面談やカウンセリングをお願いした。また、学期末ごとに「相談だより」等で、相談機関の案内をし、学校で悩みを相談しづらくてもあらゆる相談窓口があることを周知してもらう機会とした。今後も職員、保護者、専門機関と連携・協力しながら、生徒一人ひとりが過ごしやすい環境になるよう努めていきたい。</p> <p>○今年度は、1学期に本校カウンセラーを講師にお招きし、「グリーンケアとアンガーマネジメント」をテーマに職員研修を実施した。2学期は本校スクールソーシャルワーカーにご自身の経験などもあわせて、生徒・保護者への対応の仕方についての講話をしていただいた。お二方とも専門的で分かりやすい内容で今後活かしていけるものとなった。</p>	3.0		
	④ 環境美化活動と清掃奉仕活動の充実	<p>(1) 環境美化に生徒・職員が一体となって取り組むことができる体制を整備し、快適な学習環境・職場環境の維持を図る。</p> <p>(2) 美化委員会を中心とした環境美化活動を推進し、生徒の美化意識と奉仕の精神の喚起・啓発に努める。</p> <p>(3) 地域と連携した清掃奉仕活動を実施し、地域に根ざし、地域から信頼される学校づくりに寄与する。</p>	<p>○今年度も清掃強化期間及び校内安全点検を学期に1回実施した。清掃強化期間については美化委員会を中心となり、全校生徒へ環境美化について喚起し、美化意識の高揚に努めた。また、校内安全点検については各清掃担当職員に依頼し、普段見逃しがちなところについても点検を行ってもらい、安心して過ごすことのできる環境になるよう努めている。</p> <p>○日南市との連携事業である鉄肥駅清掃奉仕活動を1年生の2クラス合同で実施し、普段取り組めないところまで手が届くように役割分担をした。生徒は時間が足りないほど一生懸命に活動してくれた。また、毎年12月に実施されるJR日南線構内美化作業ボランティアについては、天候不順により中止となった。</p> <p>○生徒数の減少により、清掃場所の分担に苦慮しており、特別教室や普段使用頻度の少ないトイレ、外庭など手が行き届いていない箇所がある。LHR等で清掃活動をする機会をつくるなどの手立ても検討していくようにしていきたい。</p>	3.0		

重点目標	評価項目	取組(P)	自己評価(A)		学校関係者評価
			方策・手立て(D)、結果の考察・分析及び改善策等(C)		具体的意見
3 進路支援の充実	① 生徒が有する多くの要求に応えるための企画や指導方法の研究と実践	<p>(1) 3年生は各コースの特性を生かした進路支援を実践し、前年を上回る進路達成を実現する。</p> <p>(2) 校内・校外模試については、結果の迅速な分析を行い、学力向上を目指すとともに、早期の進路決定と目標実現のための支援を強化する。また、種々の資料やデータを有効に活用し、進路支援に生かす。</p> <p>(3) 分野別教養講座・オープンキャンパス・看護体験・ボランティア等へのチャレンジを促し、生徒の経験値を高めるとともに、ポートフォリオ等の活動の記録やその保管方法を工夫する。</p> <p>(4) 総合型・学校推薦型・一般選抜への対応として、6月以降、小論文・面接指導を職員全体で行う。</p> <p>(5) 1・2年生の学力検討会、3年生の進路検討会の時間を確保し、学力向上に向けた各学年の取り組みを支援する。</p>	<p>○3年生については、年度当初に担任・教科担任団で各生徒の学力や進路志望状況を共有する場を設定し、支援の方向性(総合型・推薦を活用すべきか一般で勝負させるか)について目線合わせをすることができた。卒業生119名全員が進路を内定しており、その内34名が国公立大学である。総合型や学校推薦型受験にあたっては、面接・小論文の担当職員を一人ずつ割り当て、きめ細かな支援を心がけた。この支援の仕方は今後も継続していきたい。</p> <p>○オープンキャンパスや看護体験の後押しをすることで多くの生徒が参加した。一方でポートフォリオの有効活用については、紙媒体のキャリアパスポートを運用しているが、様々な企画の記録や感想の保存をしているものの、進路選択の際に活用できているとは言えない状況である。また、記録をデジタルで残すことが多くなっている中、紙媒体との併用に苦慮している。</p> <p>○1・2年生については、9月と12月に主に対外模試成績を基礎資料として学力検討会を実施した。過去回比較や過年度比較を行うことで現状把握と支援の方向性について共通理解を行った。生徒への還元タイミングと学校行事との関係で最善の日程設定が難しい状況で、検討事項である。</p>	3.0	<p>・講座については希望制をとって選択されているので評価したい。生徒の主体性や判断力を日常的に育てながら、主体性を大切にした進路支援がなされている。</p> <p>・面接、小論文指導の個別対応が手厚い支援体制として評価したい。生徒一人一人に寄り添って指導いただいている。先生方の努力に敬意を表したい。</p> <p>・数値分析をしながら進めている点が良いと思う。入学してくる生徒は少なくともその生徒をしっかり伸ばして卒業させることが大事なので、そのための取組がしっかりできていると思う。</p> <p>・模試の分析、キャリア教育の推進、朝夕講座の実施など、進路実現に向けた体制づくりを行っていると思う。</p> <p>・難関大の合格者数など、現状の成績で生徒募集が左右されることもあるかもしれないが、中3だけではなく、早い段階での小中連携などのアプローチも必要ではないか。</p> <p>・日南市役所との連携など総合的な探究の時間の体制が充実し、成果が上がっていて素晴らしいと思う。</p> <p>・未来戦略課、NichinanProjectの連携、充実はぜひ地域企業と連携した取組にした方が良いのではないか。</p>
	② 進路支援体制の構築とキャリア教育の推進および計画的実施	<p>(1) コースや類型に対応した、3年間を見通した進路支援体制を構築する。</p> <p>(2) キャリア教育について、キャリア教育推進委員会を中心とした各校務分掌や教科との連携を密にし、加えて地域人材や専門家の活用を模索しながらより体系的・組織的に計画、実践する。また、探究・未来戦略課企画委員会と連携し、「未来戦略課・Nichinan Project」の充実を図る。</p> <p>(3) 新しい学力観で求められる学力の向上の手立て、特に「大学入学共通テスト」で実力を発揮できる生徒の育成方法について研修の機会を設ける。</p> <p>(4) 新教育課程に応じた指導の在り方について、教員間の共通理解を深める。</p>	<p>○キャリア教育としては、まず1・2年1学期にリクルートの教材を用いて自己理解、学問・職業研究・大学研究を行い、1年6月に地元企業6社を招いて職業観育成講座、1・2年11月に11大学の先生方を招いて分野別教養講座、1・2年3学期に小論文学習を企画した。これらを踏まえて3年7月に小論文講演会を行い、進路実現につなげるように計画した。</p> <p>○個々の企画は一定の効果があると思うが、その他学校行事や個々の抱える仕事量を俯瞰したときに、積極的に代替案を考える必要性を感じている。また、進路支援部として探究・未来戦略課企画委員会との連携は深められてはいないのが現状である。</p>	3.0	
	③ 学力向上を目的とした指導方法の改善	<p>(1) 朝講座と夕講座の実施方法を検証し、より効果的なものとする。</p> <p>(2) 放課後の時間やFTを活用し、各学年において個に応じた指導体制を支援する。</p> <p>(3) 校内実力テストや校内模試の充実を図り、様々な支援に活用できる形式を検討する。</p>	<p>○昨年度大きく運営方法を変更した希望講座制について、PTA総会後の開始とするなどの一部修正を行いながら実施した。何らかの講座を受講している生徒は6割前後で、初年度よりはやや減少しているが、一定の需要は継続している。JRダイヤ改正への対応が急務である。</p> <p>○今年度から、長期休暇明けの課題テストを「校内実力テスト」とし、より思考力や表現力を問うテストに位置づけた。生徒の学力向上に加えて職員の作問力向上も期待しているため教科会などを通じた作問検討会を活性化させていきたい。</p>	3.0	

重点目標	評価項目	取組(P)	自己評価(A)		学校関係者評価
			方策・手立て(D)、結果の考察・分析及び改善策等(C)		具体的意見
4 信頼される学校づくり	① 地域との良好な関係の形成	(1) 高校説明会・オープンスクール・奨学金業務・教育課程説明会を適切に実施することで、地域・保護者の理解と協力を得られる学校を目指す。 (2) 各種行事・式典・入試業務等を確実に実施することで、地域に根ざし、地域の信頼を得られる学校作りにも貢献する。	○高校説明会は、日南市内の中学校、串間市の中学校にすべて出席。できる限り日南高校の良さをアピールできるように努めた。次年度はパワーポイントの構成などを改善したい。 ○オープンスクールは昨年度並の中学生が出席。在校生を積極的に活用して日南高校の普段の様子を中学生に伝えることができた。次年度もオープンスクールの内容などを、より一層工夫する次期にきている。 ○高校説明会、奨学金業務等は問題なく実施することができ。保護者に、周知が徹底された。	3.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SPS再認証をはじめとして、命を守る教育や体制づくりがしっかりなされていることが素晴らしい。「命を大切に学校」というイメージをこれからも広めてほしい。</li> <li>・生徒会の活動を中心に対外的な広報があり、有意義な発信ができていると思う。</li> <li>・高校生が事業所や市役所に来て調査活動を行うなど、様々な場面で校外との連携が見られ、地域に根ざした教育活動ができている点が素晴らしいと思う。</li> <li>・事前の準備や工夫した取組をしながら幼稚園やことも食堂に大変よく参加していただき、ありがたい。</li> <li>・生徒が地域に根ざして活動するしかけを今後も検討してもらいたい。</li> <li>・DXハイスクール、高等特別支援学校を魅力づくりの一つとして伸ばしてほしいと思う。</li> <li>・学校説明会や広報活動、防災体制の構築、PTAとの連携など、外部との関係構築ができていると思う。</li> <li>・保護者の協力が強力で、良い雰囲気でも活動できていると感じる。PTA活動の再編と活性化を高く評価する。</li> <li>・コミュニティスクールの前提である「地域と共にある学校への転換」がゴールだとしたときに、今年度の学校運営委員としての活動は非常に限定的だったと思う。これは企業側からのアプローチにも課題があると思うが、早い段階で学校側が地域に何を求めるのか？企業とどんな連携ができるか？よりよい施策が打てるのか？などのフリーディスカッションなどがあってもいいと感じる。企業としても学校という素晴らしい環境を前提としつつ、生徒の成長に対して寄り添えることもあると思っているし、そこにちゃんと関わっていきたくて考えている。そう考えている企業が日南市にあることを知っていただきたい。</li> </ul>
	② 学校安全体制の確立	(1) 生徒・職員の命を守るために、危機管理マニュアル・学校安全計画の策定、学校安全研修・避難訓練の実施、事故・災害時対策(組織整備・備蓄品等)に取り組み、安心・安全な学校を目指す。 (2) 地域及び関係機関と連携して効果的な避難訓練や研修を実施し、地震・火災・風水害等の緊急時に迅速・適切に行動できる集団の形成を図る。	○危機管理については、今年度初めに避難経路・AED・担架・製氷機の設置場所を教室配置図で分かるように写真付きで作成し、教室に掲示した。本校ホームページの教室配置図にも掲載してもらっている。また、熱中症等生徒の非常時対応のため冷却バックを、職員室、保健室には救急箱と一緒に保管し、加えて事務室にも新たに保管することにした。備蓄品を新入生や新任職員のもの新たに購入した。大きな地震や風水害が発生した際、本校は避難所になるため、避難所運営において地域や関連機関との連携が必要である。 ○毎年危機管理マニュアルや訓練の見直しを行っている。避難訓練については、1回目は教室からの避難経路の確認と消火訓練を行った。2回目は、JRと連携し、飢肥駅に停車している列車からの避難を行った。また、校内に残っている生徒については、清掃場所からの避難を行った。グラウンドから竹香園に2次避難を行う予定にしていたが、雨のため実施することができなかった。また、飢肥カトリック幼稚園との避難についても同じく雨のため実施はできなかった。日向灘沖地震や南海トラフ地震等大地震が起こってしまったときに臨機応変に対応することの重要性を再認識できた。地域との連携についても「共助」の観点からも実施ができるよう検討していく必要がある。	3.0	
	③ 学校と保護者が一体となった組織的なPTA活動を推進する。また、親和会に関する企画・運営、同窓会との連携による教職員および学校全体の側面支援をおこなう。	(1) 役員および各種委員会の委員長と連携を密にして、各種委員会活動をはじめPTA活動の充実を図る。 (2) 県南地区の高P連の母親委員会委員長校として、また、県高P連秋季研究大会の開催地区として各事業に協力する。 (3) 本校教育活動の記録として、紀要「天杉」を年度末に発行する。 (4) 黒潮同窓会と連携して、同窓会活動の活性化を支援する。 (5) 職員間の親睦と厚生のため、親和会事業を適切に遂行する。	○PTA活動については、今年度の大きな変更として「地区委員会」の活動を廃止した。その分、学年のPTA懇親会を研修に変更するなどして、「参加すると有意な情報を得られる・参加すると楽しい」を意識した活動を推進した。「広報」「研修」「生徒支援」の三委員会活動も、学校行事への協力を軸にしながら積極的に活動を展開していただいたことに感謝したい。 ○PTA主催事業については、「無限会PTA協力」「合勝うどん」について、両方とも50名程度の協力をいただきながら計画的かつ盛大に実施することができた。 ○本校PTA広報紙「若潮」は、各種コンクールで入賞こそ成らなかったものの、今年度も特集記事づくりに力を入れた紙面作りや、生徒の活動も生き生きとした様子が伝わる新聞作りをおこなった。今後も生徒、保護者から楽しみにしてもらえるような紙面作りを展開していきたい。紀要「天杉」も年度末に発行すべく、現在内容を集約中である。 ○同窓会との連携については、同窓会の総会に学校側からも参加するなど活動への協力と情報の共有をおこなうことができた。今後も学校と事務局の連絡を密にしていきたい。	3.8	
	④ 日南高校の広報活動を推進し、地域における本校の信頼感と親近感を高めつつ生徒募集活動を支援する。	(1) 学校ホームページを適宜更新し、日南高校の教育活動を紹介する。 (2) 日南高校便り「EXCELSIOR」、ポスター・パンフレット作成、日南市広報紙「好きです日南」への寄稿等を通じて、生徒募集に寄与する広報活動を展開する。	○学校ホームページについては、今年度も行事ごとの新着情報の発信をおこなっていただき、日南高校の今を発信することができた。次年度のホームページ運営をこれまで以上に組織的におこなうよう検討中である。 ○学校ポスター・パンフレットに加え、6月開催の中学校での説明会でタイムリーな情報が提供できるよう、新たに「ダイジェスト版」を追加作成した。 ○日南高校便り「EXCELSIOR」(日南・串間市内小中学校に配布)については、今期4回発行して学校の情報を発信してきた。昨年に引き続き行事後すぐに編集に取りかかる態勢を継続して、タイムリーな発行ができたのではないと思う。また、学校ポスターも市内事業所約30ヶ所に掲示していただいた。また、市報「好きですにちなん」への寄稿については計画通りに行い、広報に資することができた。	3.0	